

さがユニバーサルデザインフェスタ2009

ユニバーサルデザイン体験ワークショップ

Workshop for understanding Universal Design

2009.03.24

特定非営利活動法人 お世話宅配便
障害者地域活動支援センター 井手 将文

お話の流れ

- 1 . UD体験ワークショップの**背景**
 - ・障害のとらえ方に疑問
- 2 . UD体験ワークショップの**仕掛け**
 - ・構造と内容
- 3 . UD体験ワークショップの**事例**
 - ・内容
 - ・結果
- 4 . UD体験ワークショップの**課題と今後の展開**

1. 背景 -- 障害のとらえ方への違和感

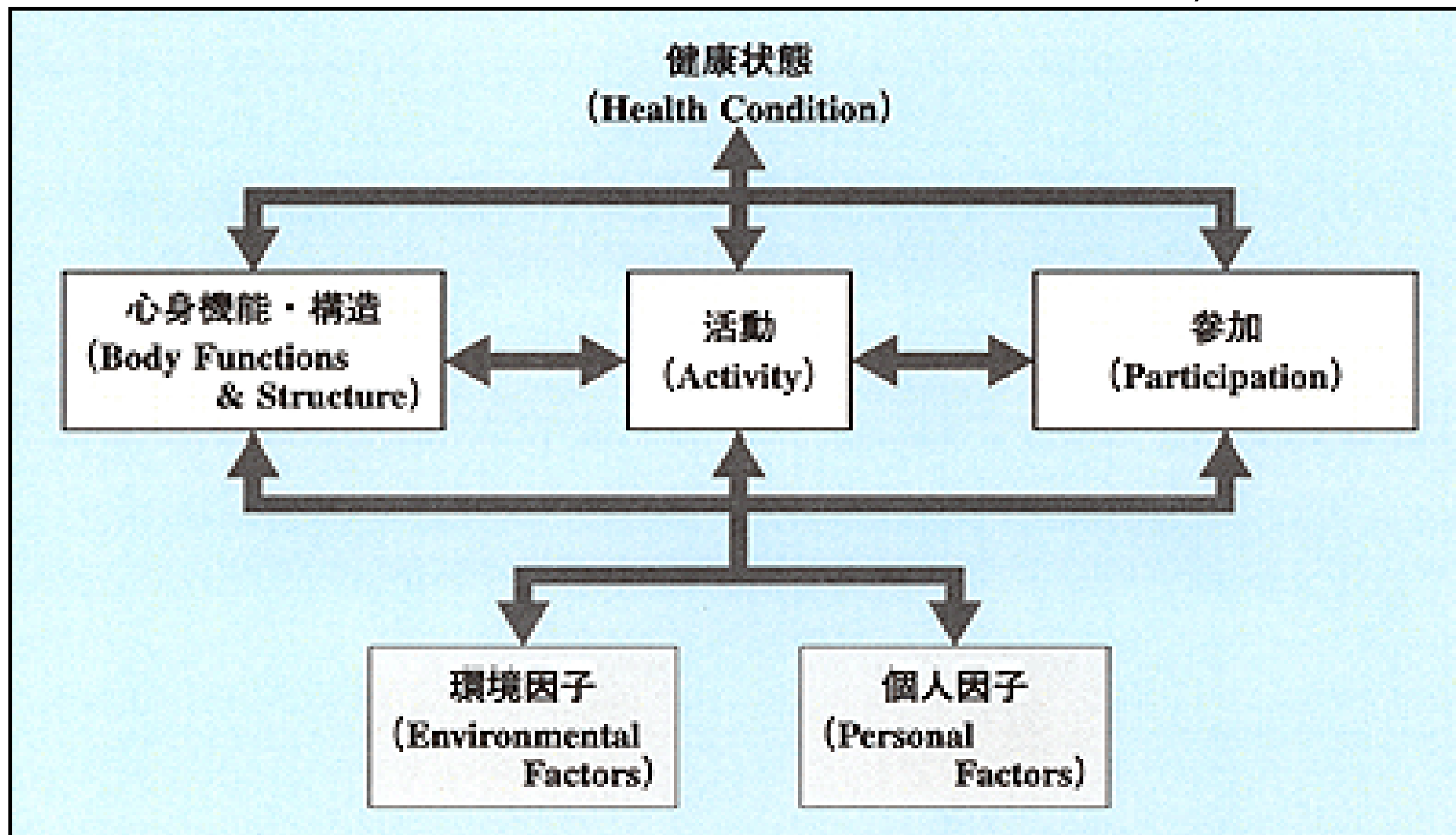
疑似体験
施設訪問

障害の大変さを理解しよう
障害者・高齢者に優しく手助けを

違和感

庇護対象としての障害者・高齢者
マイナス面としての障害・高齢

1. 背景 --- 国際生活機能分類 (ICF:2001)



障害者に限らず**全ての人間にあてはめられるモデル**
個人因子や**環境因子**で活動や社会参加の機能が**変化する**

2. 構造と内容

障害者に限らず**全ての人間が、感じて楽しめることがある**
環境因子が変わることで、活動や社会参加機能が変化する

それに気づくには

障害を持つ当事者
から直接
その意味を聞く

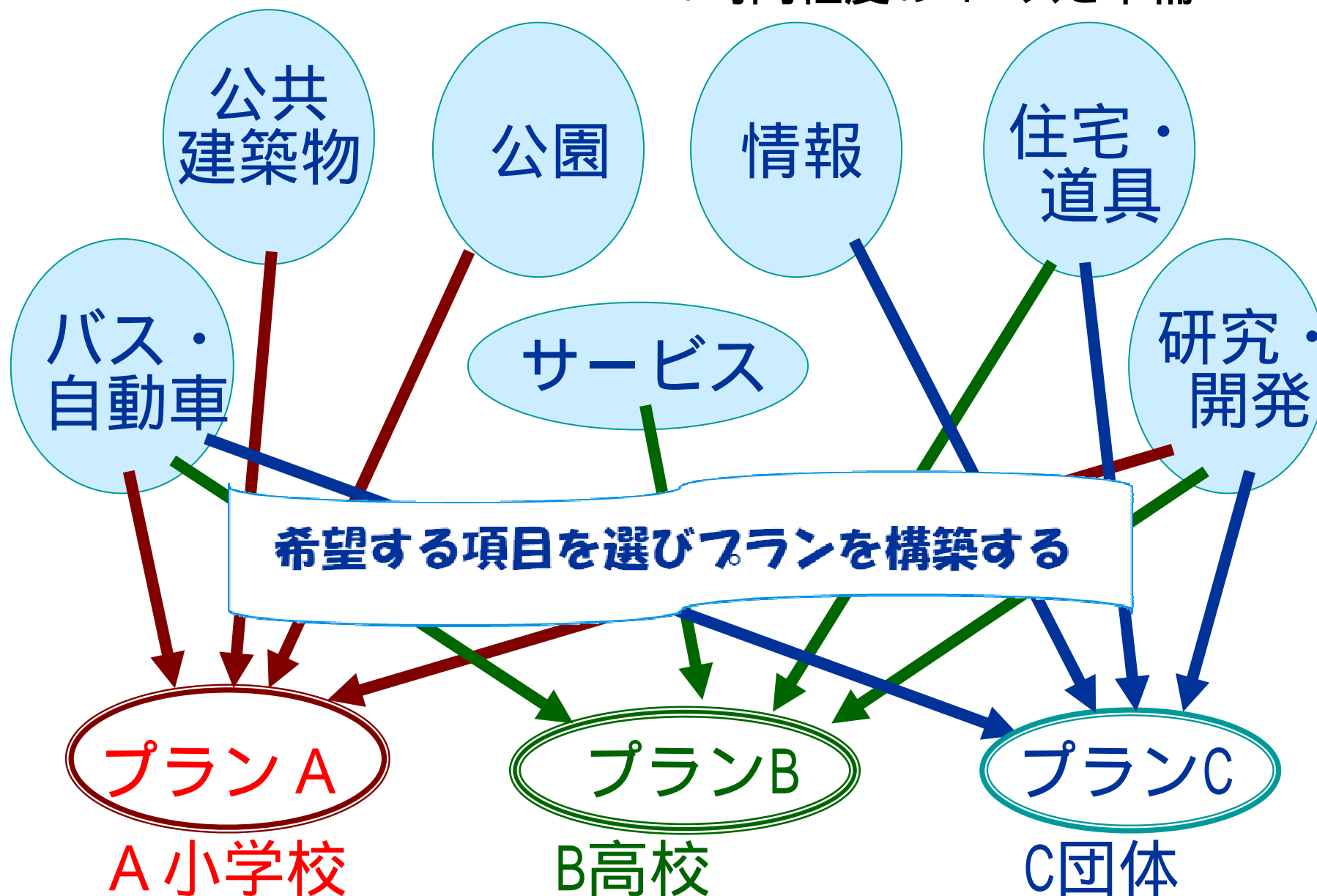
当事者と
一緒に
行動する

「公共建築物」「バス・自動車」「住宅・道具」
「公園」「情報」「サービス」「研究・開発」

の7分野に分けて、障害を持つ当事者と一緒に
佐賀市内各所を巡りながら、ユニバーサルデザイン
の意味と役割を体験学習する

2. 構造と内容

1時間程度のコースを準備



3. 事例(対象と体験内容)

K小学校(佐賀市内)

- ・1回目(08.3月:40名×3グループ, 30分×3コース) 全2時間
- ・2回目(08.6月:46名×3グループ, 50分×3コース) 全3時間

実施プラン(サブノートを持って、3コースを巡回)

- ・集まりやすくする工夫 (自動車移乗とその意味)
- ・過ごしやすくする工夫 (公園散策)
- ・いろいろな感覚を楽しむ(視覚以外の感覚体験)
電動車いす者6名、手動車いす者3名、歩行障害者1名、
視覚障害者1名、補助員7名

評価方法(アンケートによる)

- ・コース別 七段階評価・自由コメント
- ・全体的な感想

3. 事例(体験時の状況)

・自動車移乗とその意味



3. 事例(体験時の状況)

・すごしやすくする工夫(公園散策)

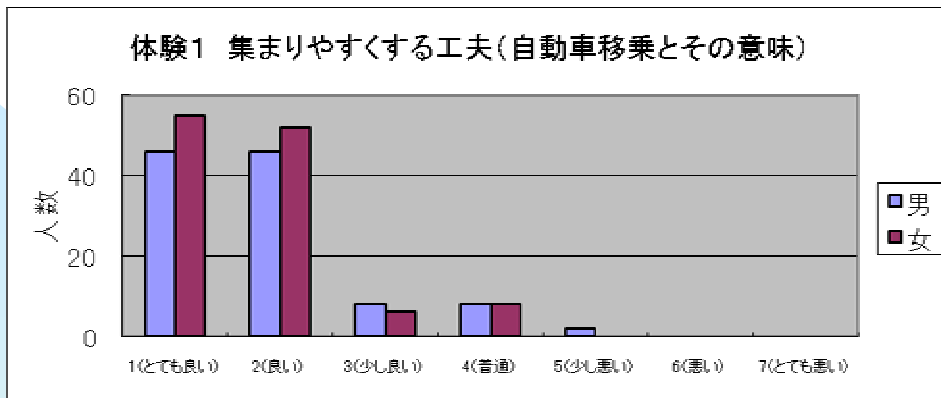


3. 事例(体験時の状況)

・いろいろな感覚を楽しむ(視覚以外の感覚体験)

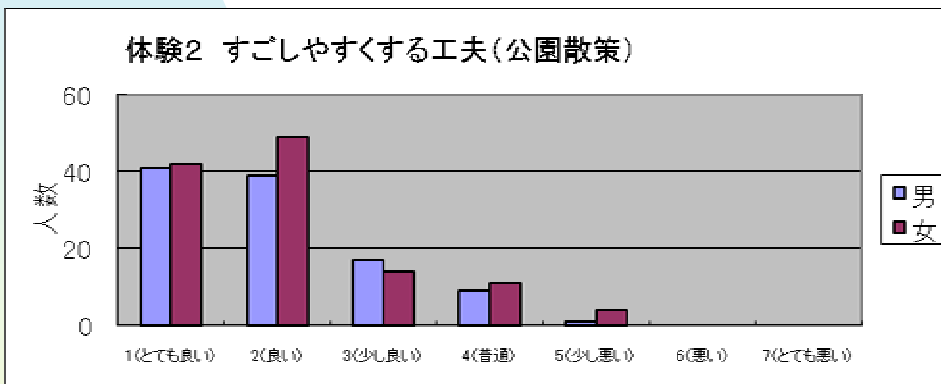


3. 事例(コース別アンケート結果)



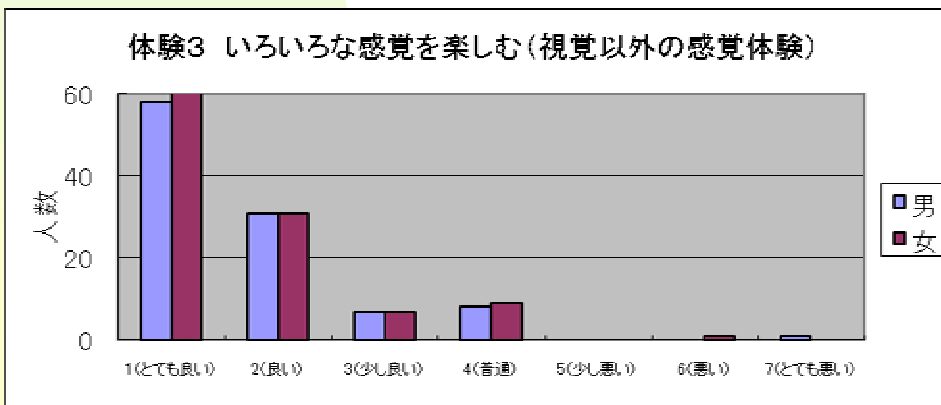
自動車移乗とその意味

・とても良い	101/232	44%
・良い	99/232	43%
・少し良い	14/232	6%
・普通	16/232	7%
・少し悪い	2/232	



公園散策

・とても良い	83/228	36%
・良い	89/228	39%
・少し良い	31/228	14%
・普通	20/228	9%
・少し悪い	5/228	2%



視覚以外の感覚体験

・とても良い	131/226	58%
・良い	62/226	27%
・少し良い	14/226	6%
・普通	17/226	8%
・少し悪い	0/226	
・悪い	1/226	
・とても悪い	1/226	

3. 事例(自動車移乗とその意味コースコメント)

- ・移乗動作に関するコメント 120/232 52%
- ・移乗は凄い、びっくりした 52/232 22%
- ・駐車場に関するコメント 79/232 34%
- ・ブレーキ等の手動装置 33/226 15%

「車に乗るとき、自分で車いすをたたんで乗っている所を見て、とてもビックリした。車の中は、普通の車とは全然違った。」

「ハンドルの横にレバーがついており、引くとアクセル、押すとブレーキになると分かり、びっくりした。」

「自動車への乗り方が人によって違う事が分かった。」

「車いすの駐車場は広く作ってあり、車いすの幅まで考えてあって工夫してあるんだなぁとビックリした。」

「障害者の駐車場に車を私達がおくと凄く迷惑がかかるという事が良く分かった。」

3. 事例(公園散策コースコメント)

- ・スロープ・段差について 89/228 39%
- ・トイレに関するコメント 64/228 28%
- ・車いすでの移動は大変だ 20/228 9%

「トイレにシャワーが付いていたのがビックリした。また段差があった所を手伝ったのも良い体験になった。」

「ベンチが置いてある所には、何故そこにベンチがあるのかななどの意味があり、よく使われるんだなぁと思った」

「神野公園にもみんなのトイレがあったりスロープがあったり障害者やお年寄りの方が快適に過ごせるように色々工夫してあるんだなぁと思った。」

「私が気付かなかった所に色々な事があったからビックリした。」

「車いすの人がどのような事で困り、どんな事が車いすにいいのかということがわかった。」

3 . 事例 (視覚以外の感覚体験コースコメント)

- ・目が見えないと怖い 95/226 42%
- ・声・音に関するコメント 90/226 40%
- ・足裏や肌からの感触 33/226 15%

「なんか目が見えない分、耳が鋭くなった感じ。少し怖かった。でも楽しかった。」

「アイマスクをかぶると地面の感じも良く分かった。ふかふかだったりじゃりじゃりしたりした。木の葉の音も良く聞こえた。視覚がないと他の感覚が良く分かる事も分かった。」

「土の路面だと普通だけど芝生だと少し柔らかかった。木陰では涼しかった。」

「アイマスクをして散歩した時鳥の羽ばたく音とか凄く聞こえた。耳を頼って行くのはとても難しい。目が見えてて木を触るのと目が見えないで木を触るのでは全然違った。私はこの活動がお勧め！！」

4. ワークショップの課題と今後の展開

a) 体験内容の拡充 / 説明スキルの向上

- ・車いす利用者と一緒に路線バスに乗ろう
- ・1本スティックでのパソコン操作
- ・誰もが楽しめるテレビゲーム
- ・ショッピングモールのお客様サービス
- ・研究機関を見学しよう ・佐賀駅 / バスセンタ探訪
- ・福祉用具やUDの道具に触ってみよう

公共
建築物

公園

情報

住宅・
道具

バス・
自動車

サービス

研究・
開発

4. ワークショップの今後の展開

b) 営業体制の強化

- ・社会 / 学校教育の教育コンテンツ
(本物による教育)

教育委員会の研修内容に
学校の研修旅行に

c) 障害者のビジネスモデル

- ・障害者でなければ説明者となりえない
自分自身の生活体験を踏まえて説明
広範囲の障害者の生活体験も反映

特定非営利活動法人 お世話宅配便

〒840-0826 佐賀市白山2丁目6-36

4月1日から

〒840-0844 佐賀市伊勢町11-9

TEL/FAX (0952)26-5271

<http://npo-osewa.web.infoseek.co.jp>

ホームヘルパー派遣事業

移送サービス事業

障害者地域活動支援センター

パソコン教室(障害者・高齢者・だれでも大歓迎!)

ホームページ作成 / 保守

ユニバーサルデザイン体験ワークショップ